

## 平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

教科「家庭」の学びをコミュニティ再生に生かす地域共創人材育成プログラムの開発  
～地域の生活を支え、地域の賑わいを創り出す「まちカフェ」プロジェクトへの挑戦～

#### 2. 研究の目的

次代の郷土をつくる人材の育成や学校を核としたまちづくりを一体的に進めるために、**地域での実践の場**として「まちカフェ」運営に取り組む。運営に当たっては、「減災活動」、「交流」、「食のまちPR活動」、「地域の魅力発信」の四つのフィールドを設定し、学校家庭クラブ活動などと連携を図りながら、コミュニティの再生・活性化及び生活の質の向上につながる教育プログラムを開発する。

また、敬愛大学、千葉敬愛短期大学等の協力を得て、協働型・双方向型学習に焦点を当てた指導方法や評価方法について研究する。

本学科の大半の生徒は、卒業後、地域の病院、介護施設、レストラン等の生活に関わる産業に従事し、地域の生活の質を左右する生活サービスの担い手となっている。しかしながら、時代の変化に伴い異世代との交流が希薄になってきている現状を踏まえ、地域の活性化のためには生徒のコミュニケーション力の育成が急務であると考えます。そのため、専門学科での学びを地域や社会の課題解決に生かし、様々な人々と協働し、主体的かつ創造的に解決できる力や、生涯にわたり学び続ける力を持った地域共創人材を育成する教育プログラムを開発する。

#### 3. 実施期間

契約日から平成31年3月15日まで

#### 4. 当該年度における実施計画

##### (1) 協働型・双方向型学習を取り入れた主体的に学ぶ力の育成

これまでの本校における協働型・双方向型学習は、グループ学習やペア学習など授業内の取組にとどまっていた。そこで本校では、クラス、学年の枠を超え、学年縦断型の学び合いを導入することとした。それにより3学年での到達点を1学年からイメージさせることで、生徒の主体的な学ぶ意欲を喚起するとともに、教え合いにより、より深い理解と技能の熟達に到達することが期待できる。

○研究のねらい：修得した専門的な知識・技術をより深い理解と汎用力のある高度な技術に習熟させ、主体的・能動的に学ぶ力の育成を図る。

○研究内容

(ア) 学習成果のプレゼンテーションや幼稚園で発表する劇りハーサルを、全学年の家政科生徒で実施し、3学年での到達点を1学年からイメージさせる学び合いの機会とする。

〈効果の測定方法〉

下級生

	定性目標	定量目標	効果の測定
課題発見力	先輩の発表を鑑賞し、自身の開発すべき能力を見いだす	生徒の理解度、習熟度 4段階評価2.0以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会におけるアンケート調査</li> <li>プロセス評価</li> <li>客観的評価</li> </ul>
計画力	目標を設定し順序立てて計画する	生徒の達成度4段階 評価2.0以上	
発信力	自分の意見をわかりやすく伝える	生徒の達成度4段階 評価2.0以上	

〈到達点〉 専門的な知識・技術の向上、主体的・能動的に学ぶ力の向上

(イ) 学年を超えた生徒同士の話し合いや教え合い、コーチング力を育成する授業を導入する。

〈効果の測定方法〉

下級生

	定性目標	定量目標	効果の測定
課題発見力	先輩の包丁さばきを観察し、自身の成長すべき技術要素を見いだす	生徒の理解度、習熟度 4段階評価2.2以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査</li> <li>観察法(行動・発言)</li> </ul>
傾聴力	相手の意見を理解し、的確な質問をする	生徒の達成度4段階 評価2.2以上	
実行力	目標を設定し、確実に行動する	生徒の達成度4段階 評価2.0以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国高等学校家庭科技術検定合格得点の向上</li> </ul>

\* (4) 評価方法の開発にルーブリック評価作成

上級生

	定性目標	定量目標	効果の測定
課題発見力	後輩の包丁さばきを観察し、後輩の成長すべき技術要素を見いだす	生徒の理解度、習熟度 4段階評価2.2以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査</li> <li>観察法(行動・発言)</li> </ul>
状況判断力	相手の性格などを尊重し、意欲を促すアドバイスをする	生徒の理解度、習熟度 4段階評価2.0以上	
発信力	自分の意見をわかりやすく伝える	生徒の達成度4段階 評価2.0以上	

〈到達点〉 専門的な知識・技術の向上、主体的・能動的に学ぶ力の向上

(ウ) 様々な人との協働、双方向のやりとりにより、生徒が思考を広げ深めていく学びを学習

過程に位置付ける。

	定性目標	定量目標	効果の測定
主体性	自ら課題発見や課題解決に向けて積極的に取り組む	生徒の理解度、習熟度 4段階評価2.2以上	・アンケート調査 (生徒・特別講師)
課題発見力	特別講師の講義等から自分の課題を見いだす	生徒の達成度 4段階 評価2.0以上	
柔軟性	自分のやり方に固執せず、相手の意見を尊重・理解し実行する	特別講師の評価 4 段階評価2.2以上	

〈到達点〉 専門的な知識・技術の向上, 主体的・能動的に学ぶ力の向上

**(2) 地域での実践の場を学習過程に位置付けた効果的な課題解決型学習の実施**

これまでの課題解決学習の過程は、課題発見⇒解決方法の検討・計画⇒実践活動⇒評価・改善のサイクルで進められることが一般的であったが、本校では、地域での実践の場「まちカフェ」運営を一連の学習過程として位置付ける。そのことにより、学ぶことと社会とのつながりを実感させながら、生徒の能力を引き出し様々な人と協働し、課題を解決する力を育成することができる。

このような地域での実践についても一連の学習過程として位置付けることによる課題解決能力等への効果は、専門高校等に広く普及できると考える。

○研究のねらい：

様々な人と協働して課題を発見し、解決に導く力を育成する。学びに向かう態度を育み、生涯にわたり学び続ける力を育成する。

○研究内容

地域での実践の場「まちカフェ」運営を専門教科「家庭」の学習過程に位置づけ、地域と連携・協働しながら、地域や社会の生活の質の向上を目指したプロジェクト学習を実施する。

〈効果の測定方法〉

	定性目標	定量目標	効果の測定
課題発見力	まちカフェで交流した内容から地域や生活の課題を見いだす	生徒の理解度、習熟度 4段階評価2.2以上	・アンケート調査 (生徒・参加者) ・観察法 ・作品評価 (成果をまとめた掲示物等)
探求力	課題解決に向けて解決方法を提案する	生徒の理解度、習熟度 4段階評価2.0以上	
傾聴力	相手の意見を丁寧に聴き内容を理解する	生徒の理解度、習熟度 4段階評価2.0以上 参加者の評価 4段階 評価2.2以上	
発信力	自分の意見をわかりやすく伝える	生徒の達成度 4段階 評価2.0以上	

〈到達点〉様々な人と協働して問題を発見，課題を設定し，解決に導く力の向上  
生涯にわたり学び続ける力の向上

### （３）「まちカフェ」の運営

これまで家庭に関する学科設置校では，高校生レストランやファッションのブランド化等，専門教科「家庭」における食やファッションの学びを地域の活性化に生かす様々な取組が行われてきた。一方，本校では，地方が直面している地域社会の機能維持に資するため，地域の子育て支援に関する学習や，高齢期の生活の質の向上を図る学習，生活文化の伝承・創造に関する学習等を充実させ，地域の活性化や地域を創生する活動に取り組む。また，「まちカフェ」の運営に当たっては，地域と連携・協働しながら，次代の郷土を創る人材の育成や学校を核としたまちづくりに向けて，館山市を中心に，NPO団体や社会福祉法人等各機関と連携し，一体的に進めていく。「地域とともにある学校」への転換は，教育界に共通した課題であり，家庭に関する学科が地域社会で果たす役割を示唆する取組になると考える。

#### ○研究のねらい：

様々な人々と協働して課題を発見し，解決に導く力や，生涯にわたり学び続ける力等，地域を支える生活産業のスペシャリストとしての資質を育む。

#### ○研究内容：

- ・「まちカフェ」とは，コミュニティの再生に向け，地域の人々が集い，交流し，地域の魅力を再確認・発信するプロジェクトであり，主に「減災活動」，「交流」，「食のまちPR活動」，「地域の魅力発信」の４つのフィールドで活動する。
- ・「まちカフェ」は，家庭科の学習過程（課題発見⇒解決方法の検討・計画⇒実践活動⇒評価・改善⇒地域での実践）における地域での実践の場であり，家庭の学びを生かし生徒が運営する。
- ・この運営は３年の「課題研究」において企画し，「学校家庭クラブ活動」で実践活動を行う。その内容や成果を校内及び県連家庭クラブ総会などで紹介し普及に努め，学校家庭クラブ活動の充実に寄与する。
- ・「まちカフェ」の前段階として，今年度は学校内の教室で講座等を開く「校内カフェ」や市内の施設やイベント会場で講座等を開く「出張カフェ」を計画・運営または計画する。
- ・「まちカフェ」の運営にあたっては，館山市を中心に，NPO団体等各機関や社会福祉法人と連携し，地域と連携・協働しながら，次代の郷土をつくる人材の育成や学校を核としたまちづくりを一体的に進める。なお，「まちカフェ」の会場提供をしてくださる社会就労センター「和麵屋中里」は，障がい者がより就労実践に近い内容で就労経験を行えるように支援し，蕎麦・うどんなどの昼食営業を行っている飲食店である。

〈効果の測定方法〉

	定性目標	定量目標	効果の測定
計画力	提案したイベントに必要な準備を順序立てて計画する	生徒の達成度 4 段階 評価 2.2 以上	・アンケート調査 (生徒・来場者・各関係 機関担当者) ・観察法(行動・発言) ・作品評価(成果物) ・集客数調査
情報発信力	まちカフェや実施するイベントを、相手にわかりやすく宣伝をしたり、実施した内容を発信したりする	生徒の達成度 4 段階 評価 2.2 以上 来場者の評価 4 段階 評価 2.2 以上	
柔軟性	意見の違いや立場を理解・尊重し、臨機応変に対応する	生徒の理解度、習熟度 4 段階評価 2.0 以上	
規律性	その場の状況を察知して自らの発言や行動を適切に律する	生徒の理解度、習熟度 4 段階評価 2.5 以上	
ストレスコントロール力	ストレスを感じることがあっても、今までの経験をもとに冷静に対応する	生徒の理解度、習熟度 4 段階評価 2.5 以上	

〈到達点〉・地域と連携・協働しながら、生徒による「まちカフェ」の主体的な運営  
 ・「まちカフェ」の認知度の高まりと利用者・参加者の満足度の向上  
 ・各フィールドの目的を達成することにより、学校を核とした地域コミュニティの活性化

〈検証方法〉 調査対象：主催した生徒、講座参加者やカフェ利用者、各関係機関担当者

調査方法：アンケート調査、集客数調査、ループリック等の絶対評価

「まちカフェ」で行う四つのフィールド別の内容等については、次のとおりである。

① **減災活動**

平成 28 年度に作成した防災マニュアル～生き抜くための 6 か条の改訂・普及や、地域の各関係者と共に合同防災訓練や減災講座など、減災活動を行う。

○研究のねらい：地域住民が地域防災の担い手となるコミュニティの構築

② **交流～乳幼児とその養育者、高齢者、支援を必要とした方々等との交流～**

パネルシアターや手遊びを取り入れた交流会や、家庭看護技術を生かした講座等を開催する。

○研究のねらい：子育て支援、高齢者支援及び異世代が交流できるコミュニティの形成に寄与する。

③ **食のまち PR 活動**

郷土料理と郷土食材を使った生徒考案レシピ「房総の恵みぎゅっとピタ」を普及する活動や

郷土料理講習会，食育講座などを開催する。館山市農水産課食のまちづくり協議会と連携を図り，「房総の恵みぎゅっとピタ」を館山ご当地グルメとして商品化し，食の魅力と共に地域外に向け発信する取組を行う。観光イベント等におけるブースの設置，飲食店に限定メニューとして提供してもらい試み，小中学校に地域の食文化を伝える出張カフェ等を実施する。

○研究のねらい：「房総の恵みぎゅっとピタ」を館山ご当地グルメとして商品化し，宣伝することで，館山の知名度を上昇させ，観光客数が増員することを期待する。

#### ④ 地域の魅力発信

総合的な学習の時間と連携した観光の学びを通して，学んだ地域の魅力や祭礼などの伝統文化等，地方生活の魅力を見直し，発信する。

○研究のねらい：生徒を含め地域子供たちの「郷土への誇り・愛着」を醸成する。  
地域の魅力の再発見・発信

#### (4) 評価方法の開発

ルーブリック等の絶対評価による判断基準表を作成することにより，生徒の自己評価力を育成する。

《ルーブリック例》

1年生が取り組む「きゅうりの半月切り」練習に、技術向上を目指して3年生がアドバイスを  
する協働型授業

下級生

	A <sup>+</sup>	A	B	C
課題発見力	包丁技術においてどこに問題があるかに気づき、改善するポイントがわかる	包丁技術においてどこに問題があるかに気づく	切ったきゅうりから、どこに問題があるかに気づく	問題に気付かない 問題を発見する意欲がない
傾聴力	アドバイスの内容を理解し、行動につなげ、更に質問を投げかける	アドバイスの内容を理解し、行動につなげた	アドバイスの内容を理解した	アドバイスの内容を理解できなかった 聴く意欲がなかった
実行力	課題を把握し、アドバイス内容と共に、自分なりの工夫を加えて行動につなげた	課題を把握し、包丁技術におけるアドバイスを取り入れ行動につなげた	課題を把握し、包丁技術におけるアドバイスを参考にした	包丁技術におけるアドバイスを参考にしなかった

## 5. 実施体制

※ 企画提案書の記載内容を更新して記載

### (1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
石井 浩己	校長	統括
藪崎 秀人	教頭	統括補佐
鈴木 陽一	教頭	統括補佐
筒井 智会	教諭	家政科主任
瀬戸 佳子	教諭	家庭科
白鳥 陽子	教諭	家庭科
吉野佳菜子	教諭	家庭科
安部 美咲	教諭	家庭科
市毛 良子	実習助手	図書 家庭科
小谷美恵子	非常勤講師	家庭科

### (2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
石井 浩己	校長	統括
藪崎 秀人	教頭	渉外
鈴木 陽一	教頭	渉外
宇津木規之	事務主幹	会計全般
平塚 尊明	主幹教諭	IT機器関連 商業科調整
水口 聡	主幹教諭	2学年 海洋, 工業科調整
進藤 千章	教務主任 教諭	教務関係調整
棚橋 孝	総務部長	行事調整 PTA・同窓会連携
筒井 智会	家政科主任 教諭	家庭科専門分野
瀬戸 佳子	家政科 教諭	家庭科専門分野
白鳥 陽子	家政科 教諭	家庭科専門分野
吉野佳菜子	家政科 教諭	家庭科専門分野
安部 美咲	家政科 教諭	家庭科専門分野
小谷美恵子	家政科 非常勤講師	家庭科専門分野
市毛 良子	図書 家政 実習助手	家庭科専門分野
倉田 律子	安房高校 家庭科教諭	安房高校との連携 アドバイザー

(3) 運営指導委員会

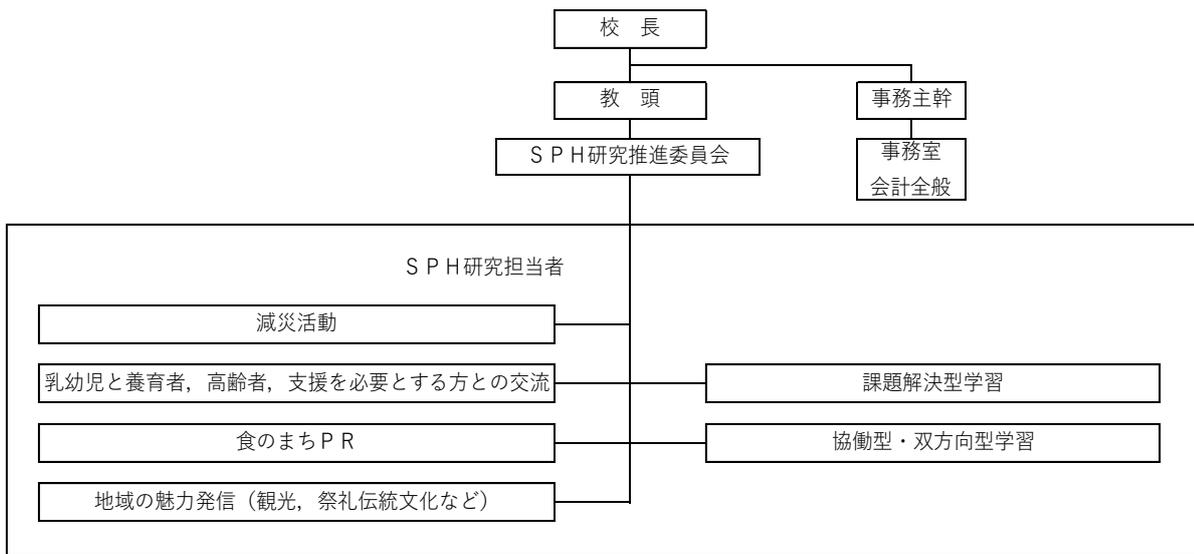
運営指導委員会スーパーバイザー：千葉敬愛短期大学 学長 明石 要一		
氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
田邊 暁子	千葉県教育庁教育振興部 学習指導課 指導主事	総合的指導・支援 教科「家庭」指導法
新田 司	千葉敬愛短期大学 教授	教育プログラム開発 評価法 公開講座
佐久間 敦子	千葉敬愛短期大学 ゼネラルサポーター	総合企画助言
森島 隆晴	敬愛大学 経済学部教授	アクティブ・ラーニング
石井 博臣	館山市 経済観光部長	地域魅力発信(観光) 食のまちづくり
渡邊 浩一郎	館山市 社会安全課危機管理室長	防災教育
畠山 正昭	社会福祉法人安房広域福祉 中里の家 施設長	保健福祉 地域コミュニティ
愛沢 伸雄	NPO法人安房文化遺産 フォーラム代表	地域連携 観光

(4) 千葉県教育委員会における支援体制

千葉県教育庁教育振興部学習指導課は、学識経験者等から組織される運営指導委員会に参加し、館山総合高等学校と連携しながら実践研究を進めていく。具体的には学期に1回学校訪問を実施し、推進状況について実地調査を行い、支援・助言等を行う。

また、千葉県高等学校教育研究会家庭部会における研修会で、研究の実践、進捗状況報告をしていく場を設定する。その中で、千葉県の家庭科教員への周知を図り、様々な意見を求める中で今後の実践研究への支援もしていく。

(5) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協働型・双方向型学習			○	○		○				○		
課題解決型解決型学習				○	○		○			○		
まちカフェ運営 減災活動							○		○			
まちカフェ運営 交流					○				○	○		
まちカフェ運営 食のまちPR活動				○					○			
まちカフェ運営 地域の魅力発信				○							○	

※ 実施の時期は事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

## 8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

## 9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

## II 委託事業経費

別紙1に記載

## III 事業連絡窓口等

別紙2に記載